



により製造業向けの需要が一時的に減少した。夏場以降は自動車関連需要の増加などを背景に生産活動は急回復したが、10月以降は円高やタイの洪水の影響を受けて高炉メーカーが減産を実施し、全体の生産量は再び減少に転じた。

財務省が発表した12月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比15.4%減の309万7,000トンとなり10カ月連続の前年割れとなった。前月比では2.4%増と2カ月ぶりに増加したが、タイ洪水の影響が及ぶ前の10月を8%下回った。輸入は同30.2%増の71万9,000トンと8カ月連続で前年を上回った。前月比では5.6%減と2カ月連続で減少した。

国・地域別輸出では、韓国・台湾などアジア NIE's が90万9,000トン（前年同月比28.4%減、前月比6.9%減）、中国が46万2,000トン（26.2%減、8.2%減）、ASEANが84万5,000トン（11.5%減、18.6%増）となった。国・地域別輸入ではアジア NIE's が45万3,700トン（前年同月比8.1%減）、中国が11万4,300トン（同16.5%増）となった。2011暦年では、鉄鋼輸出は前年比5%減の4,085万8,000トンとなり、2年ぶりの前年比減となった。東日本大震災とタイの洪水被害による海外日系需要家の生産活動の低下に加え、70円台の円高傾向の継続が響いた。輸出比率（輸出／生産～粗鋼ベース）は38%と1.2ポイント低下したが、環境の厳しい中では高い水準を維持しえたといえる。

一方、鉄鋼輸入は前年比15.2%増の797万7,000トンと2年連続の増となった。内需に対する輸入比率（輸入／見掛け消費～粗鋼ベース）は約10%と近年最高（2007年は6.2%、2010年は7.5%）となり、為替による日本鉄鋼業への負の影響が顕著に表れた。2011年の国・地域別鉄鋼輸出は、アジア NIE's 向けは1,357万5,000トン（前年比15.8%減）、中国向けは681万7,000トン（同8.2%減）、ASEAN向けは1,121万1,000トン（同0.8%減）、EU向けは50万トン（同12.3%減）といずれも減少したが、米国向けは193万3,000トン（同36.1%増）、中東は146万8,000トン（同4.3%増）、ロシアは29万9,000トン（同8.3%増）と増加した。国・地域別の鉄鋼輸入はアジア NIE's から452万9,300トンと前年比29.0%増と大幅に増加し、中国からは132万6,100トンと同1.4%増となった。

### ◆1～3月期粗鋼2,600万トン——経産省見通し

経済産業省は12月27日に、2012年1～3月期の鋼材需要見通しを発表した。それによると、出荷相当の粗鋼生産量は、前期比2.3%減の2,600万トンとなる。普通鋼鋼材の国内需要は1,277万トンと0.8%減少すると見通している。このうち土木は一次補正予算分の復興需要に加え、民間土木が堅調なため148万と3.0%増となり、建築は冬場の季節的要因から318万トンと7.7%減少する見込みとなっている。製造業は、自動車生産が大震災やタイの洪水の影響からの取り戻しと国内販売のピーク時から高水準を示し、327万トンで5.3%増の見通しとなった。電気機械はボイラー・タービンなどが好調、産業機械は中国経済の減速から建設機械の販売が鈍化し、需要が後退する。

普通鋼鋼材輸出は590万トンで1.7%増と見通している。定修明け製鉄所の輸出が加わるため、円高や海外市場の伸び悩みから実質的には微増に止まる。一方、輸入は145万トンと7%増を見込んでおり、需給バランスへの影響を強めている。メーカー・問屋在庫は、12月末が652万トンと9月末から2%減じると見込んでいるが、依然水準は高く、1～3月期中にさらに30万トン程度減少すると見通している。この生産見通しを織り込んだ2011年度の粗鋼生産量は、前年度比4.4%減の1億592万トンとなる。前年度比マイナスは2年ぶりである。

## ◆2011年世界粗鋼生産、15億トン突破

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた2011年12月の世界粗鋼生産（64カ国）は、前年同月比1.7%増の1億1,705万8,000トンで、27カ月連続して前月水準を上回った。前月比では1.5%増と2カ月ぶりの増加で、中国が7カ月ぶりに増加に転じ、中国以外は2カ月連続で減少した。日産量では64カ国で1.8%減と3カ月連続で減少し、中国は1.2%増と6カ月ぶりに上昇、中国以外は4.1%減と2カ月連続で減少した。日産量でインド、韓国ともにやや後退し、EUも前月比14%減少したのが目立っている。

この結果、2011年の世界粗鋼生産量は前年比6.8%増の15億1,469万トン（2010年は14億1,360万トン）と2年連続で過去最高を更新した。先月号では、年後半の生産量の増加傾向の失速により15億トンの大台に到達するのは困難ではないかと記述したが、64カ国合計は14億9,006万トンと15億トンには達しなかったものの、世界合計では中国の12月の生産量（5,216万トン）の増加などにより、初の15億トン超えを達成した。全体の45%を占める中国は前年比8.9%増の6億8,327万トンと過去最高を更新した。中国以外は同5.1%増の8億3,142万トンとなったが、過去最高だった2007年の実績には及ばなかった。

表-1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%,出所:世界鉄鋼協会)

	11年12月	前年同月比	前月比	2011年	前年比
フランス	1,108	(△1.5)	(△17.6)	15,777	( 2.4)
ドイツ	3,025	(△4.8)	(△12.3)	44,288	( 1.0)
イタリア	1,959	( 3.1)	(△23.7)	28,662	( 11.3)
スペイン	893	(△12.5)	(△27.0)	15,591	(△4.6)
イギリス	669	( 1.7)	(△7.1)	9,481	(△2.3)
EU27カ国計	12,541	(△0.8)	(△11.6)	177,431	( 2.8)
トルコ	3,112	( 11.5)	( 9.2)	34,103	( 17.0)
他欧州計	3,345	( 11.6)	( 8.5)	37,181	( 16.6)
ロシア	5,886	( 3.1)	( 5.7)	68,743	( 2.7)
ウクライナ	2,804	(△5.3)	(△4.1)	35,332	( 5.7)
C I S計	9,318	( 1.2)	( 1.9)	112,434	( 4.0)
カナダ	1,120	(△0.4)	( 5.7)	13,090	( 0.6)
メキシコ	1,550	( 13.0)	( 1.3)	18,145	( 8.6)
アメリカ	7,334	( 10.3)	( 4.3)	86,247	( 7.1)
北米計	10,134	( 9.6)	( 4.0)	118,927	( 6.8)
ブラジル	2,688	( 10.7)	(△1.9)	35,162	( 6.8)
南米計	3,795	( 10.3)	(△0.5)	48,357	( 10.2)
アフリカ計	1,202	( 1.9)	( 10.2)	13,966	(△14.1)
中東計	1,718	( 3.7)	( 4.7)	20,325	( 7.1)
中国	52,164	( 0.7)	( 4.6)	683,265	( 8.9)
インド	6,150	( 7.1)	( 2.5)	72,200	( 5.7)
日本	8,397	(△8.4)	(△3.4)	107,595	(△1.8)
韓国	5,950	( 7.2)	( 2.9)	68,471	( 16.8)
台湾	1,920	( 9.7)	( 3.2)	22,660	( 14.7)
アジア計	74,581	( 0.7)	( 3.3)	954,190	( 8.0)
オセアニア計	424	(△38.2)	(△2.3)	7,248	(△11.1)
64カ国計	117,058	( 1.4)	( 1.5)	1,490,060	( 6.8)
*中国以外	64,893	( 2.6)	(△0.9)	806,795	( 5.1)
世界計	-	-	-	1,514,685	( 6.8)

新興国の2011年生産は、インドが7,220万トンと初の7,000万トン台、韓国は6,847万トンと2年連続の過去最高を更新、ブラジルも3,516万トンで過去最高を上回った。トルコは2年連続で最高を更新し、初の3,000万トンに乗せた。ロシアは6,874万トン（前年比2.7%増）と2007年実績を下回り、アフリカも減少に転じるなどバラツキはあるものの、主要国を中心に堅調に伸びた。先進国の2011年の生産はEU27（1億7,743万トン）、北米（1億1,893万トン）が2年連続で増加した一方、日本は2年ぶりに減少した。ピークの2007年比ではEUは15%減、北米で10%減にとどまり、日本を含めて先進国の生産水準は、ピークの90%以下にとどまった。 □